

仕事能力と会社生活

本調査研究は、世界的な経済環境の激動の下で経営労働をめぐる“市場性”が強調されていることを踏まえて、産業構造・就業構造の変化や人材の流動化、雇用のフレキシブル化等の動向を把握した。また、人材の有効活用と職業能力開発、モチベーション向上に結びつく組織運営や人事労務管理のあり方、並びに今後の仕事意識の方向性について考察した。

研究委員会メンバー

(主 査)安 藤 喜久雄	駒澤大学 教授
(委 員)齊 藤 幹 雄	東北福祉大学 助教授 兼 (財)雇用開発センター 客員研究員
白 川 修 司	(株)学生援護会 経営管理本部担当部長
田 島 博 実	(財)雇用開発センター 研究調査課長
千 野 弘 道	東京都商工指導所 主任指導員
戸 田 藤 男	日本商工会議所 産業部労働課長
平 野 賢 哉	明治学院大学大学院 経済学研究科博士課程
村 木 太 郎	労働省労政局 勤労者福祉部企画課長
山 田 修 嗣	東洋大学 非常勤講師
(事務局)野 村 雄三郎	(財)雇用開発センター 常務理事
川 上 方 満	(財)雇用開発センター 研究調査部長
荒 井 直 子	(財)雇用開発センター 研究調査部

目 次

第 1 章	人事労務の課題と会社生活のあり方
第 2 章	経営転換の動態と人事労務管理の新波動
第 3 章	賃金の能力主義化
第 4 章	人材活用策をめぐる労使の対応
第 5 章	キャリアと職能的役割
第 6 章	職業能力とモチベーション
第 7 章	会社生活をめぐる労使の意識
第 8 章	職業観の軸足
	調査の概要及び基本的属性
	付属統計資料

調査の対象及び内容

(1) 「新時代の人材開発に関する調査」(企業調査)

調査時期 : 平成 11 年 2 ～ 4 月

調査対象 : 従業員規模 30 人以上の企業 2,500 社 (株帝国データバンク「COSMOS 2 (企業リスト)」からの層化三段無作為抽出による通信郵送調査)

回収数 : 610 社 (有効回収率 : 24.4%)

調査内容 : 経営動向の変容、人事労務管理戦略、基幹的人材、モチベーション管理、賃金の能力主義化、人材流動化における労働力構成、若手社員への印象、職群別の有効活用、能力開発、人材活用等をめぐる考え

(2) 「会社生活とキャリアに関するアンケート」(従業員調査)

調査時期 : 平成 11 年 3 ～ 5 月

調査対象 : 企業調査で回答のあった企業のうち、41 社の従業員 820 人 (郵送留め置き法)

回収数 : 412 人 (有効回収率 : 50.2%)

調査内容 : 経験してきた職務分野、仕事のやりがい、賃金・人間関係・働き方等についての考え、職業観・仕事観等